

専門性の高いアレルギー治療を行う アレルギー疾患先端治療センター

アレルギー疾患は呼吸器・鼻・眼・皮膚・消化器など全身に症状が出る疾患です。当センターでは、内科・小児科・皮膚科・耳鼻科のアレルギー専門医が横断的に密接に協力して総合的にアレルギー疾患を治療してまいります。それにより、全身のアレルギー疾患を同時に根本から治療することが可能です。新しいセンターの診療についてご紹介します。



Q 取り扱うおもな疾患は？

A アトピー性皮膚炎・喘息・花粉症・アレルギー性鼻炎・好酸球性副鼻腔炎・過敏性肺炎・食物アレルギー・薬物アレルギー・じんましん・金属アレルギーなどのアレルギー疾患です。

Q センターの特徴は？

A アレルギー疾患に対する各診療科による横断的で総合的な治療を患者さんに提供します。

月曜日	花粉症・アレルギー性鼻炎などの鼻アレルギーで皮膚アレルギー検査が必要な方	月曜日午後に耳鼻咽喉科専門医であるアレルギー専門医が診察いたします。
火曜日	アトピー性皮膚炎・じんましん・薬剤アレルギー・金属アレルギー・食物アレルギーなど皮膚にアレルギー症状がでるアレルギー疾患の方	火曜日午後に皮膚科専門医であるアレルギー専門医が主体となり診察いたします。
木曜日	アトピー喘息・過敏性肺炎・小児喘息・食物アレルギーなどの方	木曜日午後に小児科・内科専門医(呼吸器内科)であるアレルギー専門医が診察いたします。

■ 問い合わせ先

皮膚科外来
TEL : 03-5803-5679
事前予約受付(紹介状が必要です)
地域連携室 TEL : 03-5803-4655

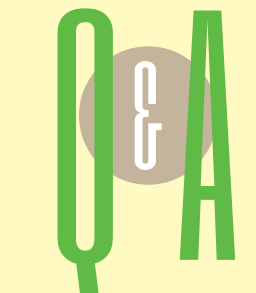


花粉症を発見・命名したのは、医科歯科大出身の齋藤洋三医師でした!



齋藤洋三医師

冬から春に暖かくなると私たちを悩ます花粉症は今や国民病ですが、実はこの病気の第一発見者で、命名者は、東京医科歯科大学出身で、前・耳鼻咽喉科助教授の齋藤洋三先生(現・神尾記念病院顧問)です。齋藤先生は、1963年に当時勤務していたスギ並木で有名な街、栃木県日光市の病院で、春先になると鼻炎や結膜炎の患者が増えることに気づき、スギ花粉の飛散が原因だと突き止め、スギ花粉症と命名して、患者数と花粉飛散量などの相関関係を日本アレルギー学会に報告したのが花粉症に関する医学的な研究報告のスタートだったそうです。齋藤先生は花粉症に苦しむ患者さんに親身になって接し、患者さんの日常生活の改善などのセルフケアや予防薬の服用など、花粉症治療の啓蒙普及にも力を注いでいます。アレルギー疾患先端治療センターでは、このような先人の偉業を継承し、アレルギー疾患に苦しむ患者さんに対する親身なケアを行っています。



Q どんな検査を受けることができますか？

A アレルギー疾患は原因アレルゲンを同定して除くことにより、根治することが可能な疾患です。当センターでは以下のような検査を必要に応じて行い、原因であるアレルゲンを明らかにし、アレルゲン除去療法・免疫療法などの治療を行います。

検査の種類：パッチテスト、プリックテスト、RAST、好塩基球活性化試験、誘発試験、吸入誘発試験(入院で実施)

Q どんな治療を受けられますか？

A 最新治療である生物学製剤・免疫療法・レーザー療法・紫外線療法、核酸医薬療法などの高度医療を受けることも可能です。それ以外にも、新たな新薬の開発のため臨床治験・臨床研究なども行っています。また患者さんの同意のもと、新規に開発された未承認薬なども試みることができます。

Q 食物アレルギーに対するケアは？

A 食物アレルギーなどではアレルゲンを含んだ食物を制限する必要があります。十分なアレルゲン除去療法をするため、アレルギーを専門とした管理栄養士・看護師などが適切な生活指導をします。

